

3月11日午後2時46分、東北地方が未曾有の大震災に見舞われた。東京都や神奈川県も交通機関が混乱し、帰宅困難者が大勢出たのも記憶に新しいところ。その時、伸こう福祉会の施設はどう対応したのか。そして、今後の対応は。6ヶ月が過ぎた今、改めて振り返ります。

特集

伸こう福祉会の3.11

当時を振り返って

震災発生時、伸こう福祉会の施設では何が起こっていたのか。「キディ百合丘・川崎」の当時の園長・鈴木麻利子が当時を振り返ります。

Part. 1

3月11日（金） 地震発生

大きな揺れがきたのは保育時間の真っ最中でした。すぐに園児たちに防災頭巾をかぶせ、落下物の危険がないところに集合。泣く子もなく、みんな保育士の言うことをよく聞いてくれました。立ってられないほどの地震を体験するのは初めてです。しかし当時は、「園児とスタッフを守らなければ」ということしか頭にありませんでしたね。

当施設の建物や家具の損壊

はなく、停電もありませんでしたが、問題は電話が繋がらなくなっていました。

安否を心配している保護者にいち早く子どもの無事を伝えたい、スタッフ一同で、会社や携帯電話にかけましたが、なかなか繋がりません。「メールアドレスを聞いておけば良かった」と、後になって後悔しました。

そうこうしている内に、電車通勤ではない保護者の方々



鈴木麻利子

が順々にお迎えにきはじめました。皆さん泣きそうな顔を見ながらやってきて、子どもを見ると、ほっと安堵の表情を浮かべました。

夕方頃には全ての保護者の方と連絡が取れたのですが、交通機関のマヒで、お迎えに来られない方も出てきたのです。そのため、園児8人が園に宿泊し、万が一の時に抱っこして逃げられるように、同数+1名の保育士も一緒に宿泊させました。余震もありましたが、園児達もスタッフも落ち着いていました。

3月12日（土）

スタッフが通勤できないと

いうことで休園させる園もありましたが、当施設では地域のスタッフを雇用していたので通常通り開園できました。

昨日の反省点を基に、保護者の方からメールアドレスを聞き、ラジオやパソコンから情報を集めながら、なるべくいつも通りの運営に努めました。

■ひと言

今年度から、「クロスハート栄・横浜」という特別養護老人ホームの施設長に就任し、今度は高齢者の生活を守る立場となりました。またいつ、このような地震が起きるかわかりません。今回の経験を糧に、防災に取り組んでいきたいと思えます。

Part. 2

設備や物資の備蓄は万全か

施設開発・管理室室長・有山志津子より、施設維持についてお話しいたします。

各施設においては、外壁や内装材に多少のひび割れが数カ所の施設で見られたものの、

建物に大きな破損もなく、利用に影響が出ることはありませんでした。ただ、今回の震

被災地へのボランティアをやって

横浜市野七里地域ケアプラザ

地域交流コーディネーター 半谷 修

訪問先 岩手県釜石市 (7月)
宮城県石巻市 (8月)



いる、住宅には車が突っ込んだまま。ニュースで流れる映像そのままの様子が、私の目に映りました。

釜石市では、損壊したお店の壁の撤去作業や、高齢社宅の草むしり、避難物資の市場への搬入作業等を、石巻市では側溝のヘドロかきを手伝いました。衛生的にはまだまだ良い状況とは言い難く、津波の凄惨さの爪痕が残っています。

住民の方の中には、津波に流されながらも屋根に何とかしがみつき、一命を取り留めた方もいました。もちろん、ご存知の通り、亡くなられた方も大勢いらっしゃいます。

おこがましい言い方ではありますが、被災地ではまだまだ色々な人の手助けが必要です。さまざまな年齢層が現地へ行って、少しでも手を貸してあげてほしいと思います。

私も、時間を見つけて再度被災地へ赴き、その体験を地域交流という仕事にも活かしていきたいと思っています。

私の所属する「横浜市野七里地域ケアプラザ」は、「横浜栄・防災ボランティアネットワーク」という団体に加入しています。今回のボランティアのうち、7月の釜石市は、そのネットワークからの呼びかけで参加、8月の石巻市は個人で募集を探して行って参りました。

「他人事ではない。少しでも関わりたい」

それが、ボランティアに行こうと思った時の率直な気持ちです。

被災地の町を見てみると、電柱が折れたままで信号がつかない、瓦礫も山のように積み重なって

【その他被災地ボランティアを行ったスタッフ】

- 横浜市屏風ヶ浦地域ケアプラザ 植村恵子 (訪問先：宮城県牡鹿郡)
- クロスハート二階堂・鎌倉 杉原みどり (訪問先：岩手県各所)
- キディ百合丘・川崎 戸島翔平 (訪問先：宮城県石巻市)

大震災停電に備えての

再点検事項

〈設備〉

- 非常用照明のバッテリーの蓄電量、予備電球の確認
- 自家発電用の軽油の常時備蓄

〈備品〉

- 懐中電灯、乾電池の備蓄
- 家具の転倒防止の確認

〈医療〉

- 在宅酸素のためのポータブル発電機を常備

災から学ぶことは多くありました。一つは、停電時の対応です。大型施設は建物自体で自家発電の機能を持っているところもありますが、ほとんどはスプリンクラーなど非常用の電源としてのみ使われています。その中でも「クロスハート野七里・栄」では、日常生活に必要な電気を供給できる自家発電のシステムとなっていたので、そこでは軽油さえ調達できれば通常の生活が可能です。もしも、今後さらに大きな災害に遭遇した場合に備えて電気、ガス、水が遮断されたときの対応策を検討して

おく必要性を痛感しています。これから新設する大規模施設ではそのような災害時の拠点となるような設備、体制を整えるよう計画を進めています。また、津波による被害を目の当たりにし、各施設の海拔や自治体から出されているハザードマップを検証し、広域避難場所を再確認したうえで、海に近い施設の避難場所を検討しています。高齢者施設、保育施設とも災害弱者となりやすい高齢者や乳幼児の避難にあたってはより実態に即した避難訓練を行っています。

Part. 3

伸こう福祉会の今後の対策

今回の大震災を受け、伸こう福祉会では
防災委員会を設置しました。同委員会で決定した
今後の対策についてご紹介します。

災害用伝言ダイヤル トライアルの実施

防災週間でもある9月1日、
伸こう福祉会の全施設で災害
用伝言ダイヤルのトライアル

災害用伝言ダイヤルとは？

NTT 東日本が提供するサービスで、災害の発生により、被災地への通信が増加し、繋がりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。携帯電話からの利用も可能です。

《利用方法》

「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行う。

• 体験利用

災害発生に備えて、事前に利用方法を覚えることを目的に、体験利用をすることもできます。

[体験利用提供日]

毎月1日、15日 (00:00～24:00)

正月三ヶ日 (1月1日 00:00～1月3日 24:00)

防災週間 (8月30日 9:00～9月5日 17:00)

防災とボランティア週間

(1月15日 9:00～1月21日 17:00)

まとめ

東日本大震災では、ご利用者の皆様に負傷をされた方はなく、建物も深刻な被害を受けることなく済みました。

このことに安堵するのではなく、表面化した課題についての対策を練っていく良い機会ということで「防災委員会」が立ち上がりました。

地震や津波による直接的な被害はもちろんのこと、停電やそれにとまなう交通機関の乱れ、ご利用者やスタッフの心身のケア、そういったことにどう対応していくか。今回の震災を機に人と人とのつながりや地域コミュニティ等が再認識され、その中で、施設はどのような立場で地域に貢献していくか。今後も、検討すべき課題が残っています。

これからもご利用者の皆様へ、「安心」「安全」のある暮らしを提供し続けていけるよう、スタッフ一同、取り組んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、伸こう福祉会では、ご利用者・ご家族様からご賛同をいただき義捐金を募りました。5月中旬までに193,528円が集まり社会福祉法人全国社会福祉協議会へ振込みをし、また、スタッフからも1,000,000円を寄付させていただきました。

皆様からのご協力に感謝いたします。

を実施しました。

このサービスは、いざという時、施設間だけではなく、ご家族との間の連絡にも有効です。トライアルを重ね、運用していく方法を検討していきます。

夜間帯のスタッフの 参集体制

現在約650人いるスタッフのうち、公共交通機関が遮

断した時に、勤務施設には向かえないけれど、法人内の他施設であれば徒歩や車で向かえるというスタッフも少なくありません。

夜間等に災害が発生した際に、スタッフの居住地や通勤手段を考慮し、勤務施設以外の施設でも支援に行ける体制を取ります。また、その際、スタッフに責任順位を決め、順位の高い者の指示で迅速な

対応が取れるよう行なってまいります。

防災マニュアルの 作成

施設維持管理や連絡体制等を踏まえた「防災マニュアル」を作成し、各施設に保管、施設内のミーティングで防災マニュアルに基づいた防災訓練を実施し、活用できるようにしていきます。